



中・四国地区青森会 会長
広印広島青果(株) 専務取締役

木村 孝和

J A 津軽みらい組合員の皆様には、りんごの生産から出荷までご理解とご協力いただいております事、厚く御礼申し上げます。

近年の果樹生産面積の減少と、気象変動が大きく影響して国産果実の入荷が不安定になっております。令和3年産は春の凍霜害、生育期の干ばつ・多雨など影響を受けて、生産量減少・正品率低下などにより入荷は少なく、現在まで数量減の単価高で推移しております。

青森県産りんごも同様に出荷量減少ですが、競合他県産は予想以上に少なく、青森県産りんごは食味も良いことからウエイトを置いた販売に繋がり、競合品目も少なく高値安定販売になっております。

2月下旬に入り、普通冷蔵からCA貯蔵に移行しました。競合品目の貯蔵みかんは終盤になり、中晩柑露地物の本格的出荷になりました。やや小玉傾向のため、数量は例年並みかやや少ない見込みです。

いちごは九州産主力で今までは少なかつたですが、これから増量の見込みであり、天候次第では大きなピークになる時期も考えられ、売り場が広がる



都内量販店の売場

見込みです。

輸入りんご(ニュージーランド産)流通経費高騰から取引価格は上昇見込みで、4月から量販店での販売が始まり、昨年8,000トンの入荷実績があったため、動向を注視する必要があります。これまでと違った環境になりつつあります。

今後、気温の上昇から品質変化が懸念されます。品種毎の出荷時期・品質管理・計画出荷の徹底を更にお願いたします。

新型コロナウイルスの影響により制限された販売促進になっております。食味の良さを前面に打ち出し、メディア等の活用により需要の喚起・売り場の確保に取り組みますので、最後まで出荷宜しくお願いいたします。



JA全農あomor九州・山口地区
青果物研究会 りんご部会長
福岡大同青果(株) 果実部
2課課長

井上 光司

平素は、九州・山口地区に出荷していただき、誠に有り難うございます。

さて、令和3年産りんごの販売状況は、価格帯が高く荷動きが鈍いなか、2月は下級品や小玉果中心の出荷で値ごろ感を前面に出した販売の結果、荷動きは回復し下級品や小玉果の価格は底上げ基調となりました。

3月以降の販売については、サンふじは各センター足並みを揃え、体質の弱い物から積極出荷して頂き、4月は品質を前面に出した販売で売場確保を図りたいと思います。

4月中旬頃からの有袋ふじへ切替えに際しては、早めのリレーが価格浮揚にも繋がるため、サンふじの積極出荷をお願いします。

他品種は売場が限られますが、有袋ジョナは気温の上昇により引合いが高まる場面もあり、状況に応じた販売に努めます。シナノゴールドについては、王林と差別化した販売が必要のため、売場確保に向けた積極的な計画出荷をお願いします。

今後の販売については、各センターと情報を密に有利販売に努めますので、J A 津軽みらいとして共計1本化を推し進め、りんご産地を牽引して頂きたいと思っております。



東京大田市場の競売